

平成30年度認知症地域支援推進員研修【新任者研修】
Ⅱ 認知症の人とその家族の支援体制の構築及び
認知症ケアの向上を図るための取組みの推進
『連携支援・ケアパス（事例②）』



まほろちゃん

おたっしゃ本舗

『おたっしゃ本舗』
とは、佐賀市内の地域包括
支援センターの愛称です！

認知症地域支援推進員 配置による事業の推進

～特別なものはまだありません。土着的に広げる事業
の推進でこれからは楽しみな佐賀からの報告です～

佐賀市大和地域包括支援センター 平方啓義



佐賀県って・・・『半端なかばってん!!』



唐津くんち

唐津・呼子のイカ



嬉野温泉と湯豆腐⇒
↓ 佐賀牛

佐賀牛

有田焼 ⇒



関西発！
肥前佐賀 3日間満喫プラン
[11月3日-5日頃]

- ☆絢爛豪華な唐津くんち
- ☆あま〜い！唐津・呼子のイカ
- ☆佐賀のやきもの
- ☆日本三大美白の湯！嬉野温泉
- ☆A5最高級！佐賀牛
- ☆100機のバルーンが一斉に佐賀平野へ！「佐賀国際バルーンフェスタ」
- ☆すべては佐賀から始った！「肥前さが幕末維新博覧会」

↓ 佐賀国際バルーンフェスタ
肥前さが幕末維新博覧会 ↓



1868 2018
肥前さが
幕末維新博覧会
Hizen Saga Bakumatsu-Meiji
Restoration Expo

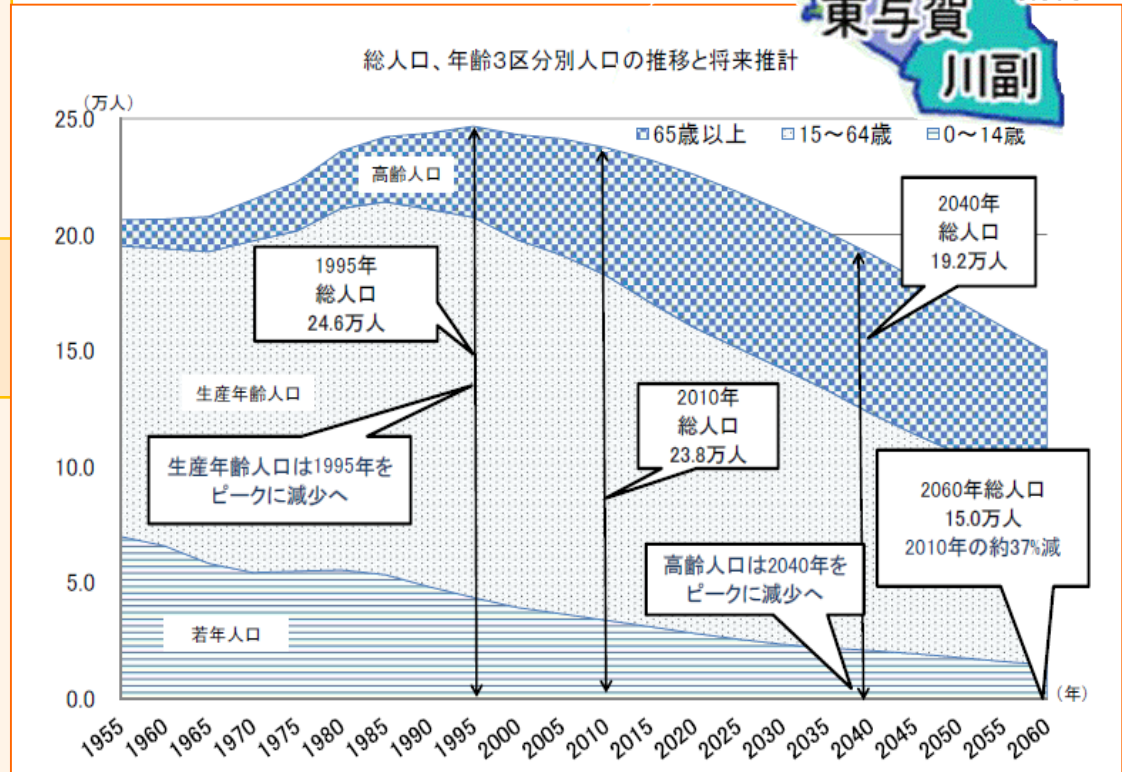
入場券 好評発売中

参考：観光情報ポータルサイト「あそぼーさが」 佐賀県観光連盟

佐賀市ってこんなところ



項目	概要
佐賀市について	佐賀県の県庁所在地(施行時特例市)。2005年、2007年に新設合併。面積431.84km ² 。市北部は福岡市と隣接した山間部で市南部は有明海に面し、市中心部は佐賀平野の中心付近に位置。
人口・高齢率・高齢者数	233,341人(99,221世帯) 高齢率27.2%(高齢人口63,440人) ✓ ここ10年で人口は5,000人減少 ✓ ここ10年で世帯数は約9,000件増加(高齢者単身、高齢者のみ世帯増加)
地域包括支援センター	15ヶ所(中学校区・日常生活圏域に1ヶ所設けている)
認知症地域支援推進員配置状況	専任1人・兼任14人(地域包括支援センターに配置) ✓ 佐賀市高齢福祉課(専任)[平成25年配置] ✓ 市内地域包括支援センター15ヶ所(兼任)[平成29年4月配置] ✓ 認知症地域支援推進員は「(第2層)生活支援コーディネーター」との兼務



国勢調査(総務省)および国立社会保障・人口問題研究所公表資料を基に佐賀市で独自試算

佐賀市の認知症施策事業

認知症

相談ダイヤル

- ・平成12年に専用ダイヤルを開設。当初は利用者も多かったが地域包括支援センター設置など窓口が増えてきたため現在は減少傾向にある。

ものわすれ

相談室

- ・平成15年開設。専門医、保健師と在宅介護支援センター配置。当初は利用者も多かったが地域包括支援センター設置など窓口が増えたこと、医療連携が推進されたことなどから現在は減少傾向にある。

高齢者見守りネットワーク事業

- ・平成24年開始事業。見守る人、見守られる人を特定せず事業活動の中で見守りをしていただける事業者を幅広く募る。
- ・市内の協力事業者は約1,062
- ・厚生労働省老健局長優良賞(介護予防・高齢者生活支援分野自治体部門)平成29年度

認知症初期

集中支援チーム

- ・平成28年設置。専門医、保健師、社会福祉士、作業療法士、管理栄養士等で構成。初期支援を包括的・集中的に対応。

認知症

ケアパス

- ・平成28年3月第1版リリース。平成29年度推進員配置により連絡会で随時見直しを行い、平成30年4月第2版をリリース。

予防支援

- ・一般介護予防事業
- ・「脳いきいき健康塾(東北大学川島教授開発プログラム)」
- ・「脳若教室(iPad活用プログラム)」
- ・「音楽サロン」

「認知症地域支援推進員」「(第2層)生活支援コーディネーター」 兼務で地域包括支援センターに配置(平成29年4月)

全地域包括支援センターに推進員として配置されたものの、何の活動をするのか、他の地域の取り組みはどんなことをしているのかなど、当初は迷いや不安がありました。

何をすればいいの？

ほかの推進員さんはどんなことしているのかな？



地域のこともよくわからない・・・

「連携」ってどこすればいいのかな・・・

認知症地域支援推進員連絡会

佐賀市生活支援コーディネーター・認知症地域支援推進員連絡会

【日時】 毎月第4火曜日10:00～12:00

【参加者】 生活支援コーディネーター(第1層、2層)、認知症地域支援推進員(専任・兼任)、社会福祉協議会コミュニティーソーシャルワーカー、市担当者等

【内容】 毎月テーマがある。必要に応じて講義形式。それぞれの計画に基づいた進捗状況を確認。佐賀市「北部・中部・南部」3ブロックに分けてのグループワーク。

【効果】 担当圏域外の取り組みがわかり参考にできる。情報を共有し、事業・活動によっては協力して展開することも可能。



認知症地域支援推進員事業（活動）計画

市の基本理念、めざす姿(目標)のもと、それぞれの地域の実情に応じて(地域アセスメント)活動計画を立てています。
10月には中間報告を行い、上期の評価と下期に向けた計画の調整を行う予定です。

次のスライドへ ←

市「高齢者保健福祉計画の基本理念・目標」と介護保険者策定の「介護保険事業計画の基本理念」を位置づけ

認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)	佐賀市	佐賀市地域包括支援センター				
【基本的考え方】 ○認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す	○佐賀市高齢者保健福祉計画(平成30年3月策定)H30~32年度 基本理念: 地域で支え合い、自分らしくいきいきと生活できる社会の実現 基本目標: I 地域で支え合う仕組みづくり II 健康づくりと介護予防の推進 III 高齢者の社会参加と生活環境の整備 IV 自立と安心につながるサービスの充実 ○第7期 佐賀中部広域連合 介護保険事業計画書(平成30年3月策定) 基本理念: 介護が必要となっても、その人らしく暮らしつづけることができる地域社会の構築	【佐賀市が求める認知症地域支援推進員としての役割】 認知症地域支援推進員それぞれが役割を理解し、認知症の人やその家族への相談対応、地域の実情にあった医療・介護連携を含めた地域づくりを展開していく。				
新オレンジプラン	(H29.7.5目録更新)	市の活動計画	(H30.3佐賀市高齢者保健福祉計画)	(長期目標)	(全包括)	H30-32年度(必ずしも)
地域の実態把握 ①地域の実情を把握する ②各地域の課題を把握し、整理する	【認知症サポーターの人数】 H28年度末実績 880万人 ⇒ H32年度末 1,200万人 【認知症サポーター養成講座について】 ⇒自治体が認知症サポーター養成講座受講者を把握する ⇒H30年度〜養成講座において、認知症サポーターが地域でできる活動事例等を紹介する	○推進員へ、県・市・市の情報提供 ⇒国・県から最新情報の提供 ⇒連合からの介護保険認定者の認知症関連集計情報の提供 ⇒地域資源の情報提供 ○高齢者実態調査の実施と認知症地域支援推進員への集計結果報告	【佐賀市の認知症サポーターの人数】 H30 1,800人 H31 1,900人 H32 2,000人	○県・市・地域の実態が分かる ⇒情報の見える化 ○認知症に関する課題を掘り起し、整理することができる	○地域の実態を把握する ⇒地域特性、地域資源(関係機関・団体・人材等) ⇒サロン・コミュニティカフェ・認知症カフェ等現状把握と情報収集 ○地域の情報や相談事例等から、認知症の方と家族の生活実態と課題を知る	○介護予防教室(地域版、自主グループ等)、地域・地区の集い、まちづくり協議会、協議体、老人会等での実態等の把握を行う。 ○包括窓口の総合相談には迅速に対応していく。
1 認知症の人への理解を深めるための普及・啓発の推進 ①認知症の人の視点に立って認知症への社会の理解を深めるキャンペーンの実施 ②認知症サポーターの養成と活動の支援 ③学校教育等における認知症の人を含む高齢者への理解の推進	【認知症初期集中支援チーム(認知症初期集中支援チーム)の実施】 H28年度末実績 22万人 ⇒ H32年度末 22万人 【認知症初期集中支援チームについて】 ⇒自治体が認知症サポーター養成講座受講者を把握する ⇒H30年度〜養成講座において、認知症サポーターが地域でできる活動事例等を紹介する	○認知症サポーター養成講座について ・重点目標・小・中・高校向け講座開催 ・キャラバンメイト交流会の開催 ・キャラバンメイト関連研修の情報提供 ・見守りネットワーク登録事業者への市民公開講座の案内 ・教材や資料の共有等、養成講座を気軽に開催できるための体制づくり ○講座会の開催やイベント等の各種広報媒体を用いた周知啓発活動の実施	【佐賀市の認知症サポーターの人数】 H30 1,800人 H31 1,900人 H32 2,000人	○多くの市民が、認知症に関する情報や相談先を理解している	○認知症に関する事業・制度の住民への周知とその推進 ⇒認知症に関する情報の発信 ⇒推進員活動のPR ⇒広報誌等の発行 ⇒本人が集う取組みの普及 ○認知症の人と家族の思いを聴き、必要な情報提供や支援に結びつける ○地域で認知症サポーター養成講座を開催する ⇒他キャラバンメイトとの連携 ⇒地域内の団体・学校等へ養成講座の開催を依頼する ⇒市民公開講座への参加呼びかけ ⇒キャラバンメイト交流会への参加と連携	○認知症サポーター養成講座について ・県キャラバンメイト(フォローアップ)研修受講 ・小中学校へ講座実施の働きかけを行う ・小売業、金融、交通機関への働きかけを行う ○介護予防教室、地域・地区の集い、まちづくり協議会、協議体、老人会等でも地域における見守り、ちょっとした支えあい活動を伝えていく。
2 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供 ①本人主体の医療・介護等の徹底 ②発症予防の推進 ③早期診断・早期対応のための体制整備 ④行動・心理症状や身体合併症等への適切な対応 ⑤認知症の人の生活を支える介護の提供 ⑥人生の最終段階を支える医療・介護等の連携 ⑦医療・介護等の有機的な連携の推進	【認知症初期集中支援チーム(認知症初期集中支援チーム)の実施】 H28年度末実績 22万人 ⇒ H32年度末 22万人 【認知症初期集中支援チームについて】 ⇒自治体が認知症サポーター養成講座受講者を把握する ⇒H30年度〜養成講座において、認知症サポーターが地域でできる活動事例等を紹介する	○「佐賀市認知症ケアパス」の普及・啓発 ・要支援者の作成 ○ものわすれ相談室の実施 ○認知症初期集中支援チームによる対応 【認知症初期集中支援チーム】 H28年9月から実施 【認知症地域支援推進員】 H25年度 直営包括に1名配置 H29年度 全15包括に各1名配置	【ものわすれ相談室への相談人数】 24人/年 【認知症初期集中支援チームによる対応】 10件/年	○認知症の人や家族の状況に合わせ、適切な関係機関につなげることができる ○困難事例等、初期対応に必要な場合に、関係機関と連携し解決につなげることができる	○専門機関へ適切につなげている、重症化防止を図る。 ○医療介護連携を図るためにコーディネートしていく。 ○地域の連携等の際に、ケアパス、認知症初期集中支援チーム、ものわすれ相談室、認知症相談ダイヤル等、市の施策についてPRを行う ○包括職員がケアパスを活用できるように研鑽していく。	

認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)

【基本的考え方】
 ○認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す

新オレンジプランを基本的な考え方に位置づけ

佐賀市

○佐賀市高齢者保健福祉計画(平成30年3月策定)H30~32年度
 基本理念: 地域で支え合い、自分らしくいきいきと生活できる社会の実現
 基本目標: I 地域で支え合う仕組みづくり
 II 健康づくりと介護予防の推進
 III 高齢者の社会参加と生活環境の整備
 IV 自立と安心につながるサービスの充実
 ○第7期 佐賀中部広域連合 介護保険事業計画書(平成30年3月策定)
 基本理念: 介護が必要となっても、その人らしく暮らしつづけることができる地域社会の構築

佐賀市地域包括支援センター

【佐賀市が求める認知症地域支援推進員としての役割】
 認知症地域支援推進員それぞれが役割を理解し、認知症の人やその家族への相談対応、地域の実情にあった医療・介護連携を含めた地域づくりを展開していく。

市として推進員に求める役割を位置づけ

認知症地域支援推進員事業（活動）計画

新オレンジプラン	その他	国の目標値 (H29.7.5目標更新)	市の活動計画	市の目標値 (H30.3佐賀市高齢者保健福祉計画)	めざす姿 (長期目標)	認知症地域支援推進員の活動計画 (全包括)	H30 計画(太字は必須)
	<p>地域の実態把握</p> <p>①地域の実情を把握する ②各地域の課題を把握し、整理する</p>		<p>○推進員へ、国・県・市の情報提供 ⇒国・県から最新情報の提供 ⇒連合からの介護保険認定者の認知症関連集計情報の提供 ⇒地域資源の情報提供 ○高齢者実態調査の実施と認知症地域支援推進員への集計結果報告</p>		<p>○国・県・市・地域の実態が分かる ⇒情報の見える化 ○認知症に関する課題を掘り起し、整理することができる</p>	<p>○地域の実態を把握する ⇒地域特性、地域資源(関係機関・団体・人材等) ⇒サロン・コミュニティカフェ・認知症カフェ等現状把握と情報収集 ○地域の情報や相談事例等から、認知症の方と家族の生活実態と課題を知る</p>	<p>○介護予防教室(地域版、自主グループ等)、地域・地区の集会、まちづくり協議会、協議体、老人会等で実態等の把握を行う。 ○包括窓口の総合相談には迅速に対応していく。</p>
<p>1 認知症の人への理解を深めるための普及・啓発の推進</p> <p>①認知症の人の視点に立って認知症への社会の理解を深めるキャンペーンの実施 ②認知症サポーターの養成と活動の支援 ③学校教育等における認知症の人を含む高齢者への理解の推進</p>	<p>【認知症サポーターの人数】 H28年度末実績 880万人⇒H32年度末 1,200万人</p> <p>【認知症サポーター養成講座について】 ⇒自治体が認知症サポーター養成講座受講者を把握する ⇒H30年度～養成講座において、認知症サポーターが地域でできる活動事例等を紹介する</p>	<p>○認知症サポーター養成講座について ・重点目標：小・中・高校向け講座開催 ・キャラバンメイト交流会の開催 ・キャラバンメイト関連研修の情報提供 ・見守りネットワーク登録事業者への市民公開講座の案内 ・教材や資料の共有等、養成講座を気軽に開催できるための体制づくり</p> <p>○講演会の開催やパンフレット等の各種広報媒体を用いた周知啓発活動を実施</p>	<p>【佐賀市の認知症サポーターの人数】 H30 1,800人 H31 1,900人 H32 2,000人</p>	<p>○多くの市民が、認知症に関する情報や相談先を理解している</p>	<p>○認知症に関する事業・制度の住民への周知とその推進 ⇒認知症に関する情報の発信 ⇒推進員活動のPR ⇒広報誌等の発行 ⇒本人が集う取組みの普及</p> <p>○認知症の人と家族の思いを聴き、必要な情報提供や支援に結びつける ○地域で認知症サポーター養成講座を開催する ⇒他キャラバンメイトとの連携 ⇒地域内の団体・学校等へ養成講座の開催を依頼する ⇒市民公開講座への参加呼びかけ ⇒キャラバンメイト交流会への参加と連携</p>	<p>○認知症サポーター養成講座について ・県キャラバンメイト(フォローアップ)研修受講 ・小中学校へ講座実施の働きかけを行う ・小売業、金融、交通機関への働きかけを行う ○介護予防教室、地域・地区の集会、まちづくり協議会、協議体、老人会等でも地域のおける見守り、ちょっとした支えあい活動を伝えていく。</p>	
<p>2 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供</p> <p>①本人主体の医療・介護等の徹底 ②発症予防の推進 ③早期診断・早期対応のための体制整備 ④行動・心理症状や身体合併症等への適切な対応 ⑤認知症の人の生活を支える介護の提供 ⑥人生の最終段階を支える医療・介護等の連携 ⑦医療・介護等の有機的な連携の推進</p>	<p>【認知症初期集中支援チーム設置市町村数】 H30年度からすべての市町村で実施</p> <p>【認知症地域支援推進員の数】 H30年度からすべての市町村で実施</p> <p>【かかりつけ医認知症対応力向上研修の受講者数(累計)】 H28年度末実績 5.3万人⇒H32年度末 7.5万人</p> <p>【認知症サポート医養成研修の受講者数】 H28年度末実績 0.6万人⇒H32年度末 1万人</p> <p>【産科医師認知症対応力向上研修の受講者数】 H32年度末 2.2万人</p> <p>【薬剤師認知症対応力向上研修の受講者数】 H32年度末 4万人</p> <p>【認知症医療連携センターの数】 H28年度末実績 約500か所</p> <p>【一般病院勤務の医療従事者に対する認知症対応力向上研修の受講者数】 H28年度末実績 9.3万人⇒H32年度末 22万人</p> <p>【看護職員認知症対応力研修の受講者数】 ⇒H32年度末 22万人</p> <p>【認知症介護指導者養成研修の受講者数(累計)】 H28年度末実績 2.2千人⇒H32年度末 2.8千人</p> <p>【認知症介護実践リーダー研修の受講者数(累計)】 H28年度末実績 3.8万人⇒H32年度末 5万人</p> <p>【認知症介護実践者研修の受講者数】 H28年度末実績 24.4万人⇒H32年度末 30万人</p> <p>【認知症介護連携研修の受講者数】 ⇒認知症介護に携わる可能性のあるすべての職員の受講を目標とする。</p>	<p>○「佐賀市認知症ケアパス」の普及・啓発 ・概要版の作成 ○ものわすれ相談室の実施</p> <p>○認知症初期集中支援チームによる対応</p> <p>【認知症初期集中支援チーム】 H28年9月から実施</p> <p>【認知症地域支援推進員】 H25年度 直営包括に1名配置 H29年度 全15包括に各1名配置</p>	<p>【ものわすれ相談室への相談人数】 24人/年</p> <p>【認知症初期集中支援チームによる対応】 10件/年</p>	<p>○認知症の人や家族の状況に合わせ、適切な関係機関につなぐことができる ○困難事例等、初期対応が必要な場合に、関係機関と連携し解決につなげることができる</p>	<p>○佐賀市認知症ケアパスの普及・啓発・活用 ○ものわすれ相談室への案内 ○地域の医療機関との連携 ○社会資源につなぐコーディネート ○「認知症初期集中支援チーム」との連携等による認知症の人や家族への医療・介護サービス提供の調整</p>	<p>○専門機関へ適切につなげていき、重症化防止を図る。 ○医療介護連携を図れるようにコーディネートしていく。 ○地域での講話等の際に、ケアパス・認知症初期集中支援チーム・ものわすれ相談室・認知症相談ダイヤル等、市の施策についてPRを行う ○包括職員がケアパスを活用できるように研鑽していく。</p>	

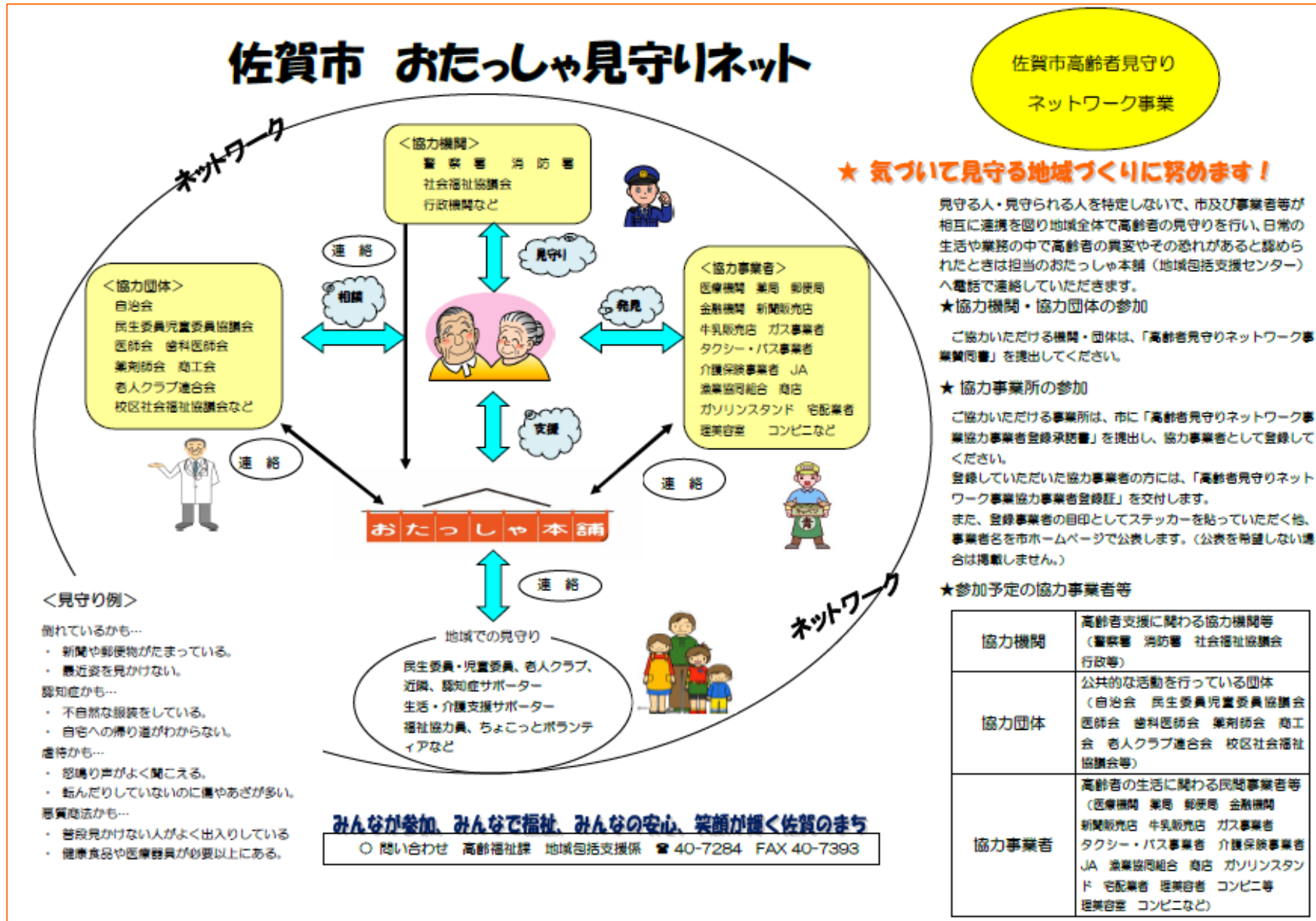
新オレンジプランの目標、市推進事業を基に長期目標と年度計画を策定

佐賀市高齢者見守りネットワーク事業「おたっしゅ見守りネット」



協力事業者（商店等）にステッカーを配布しています。

協力事業者・協力機関を随時訪問し地域の状況や情報の共有、あらたな事業者の開拓を行っています。



個別支援・佐賀市認知症初期集中支援チーム（連携）

《認知症初期集中支援チーム》 平成28年9月設置

認知症専門医と専門知識を持つ保健師、社会福祉士、作業療法士、管理栄養士等で構成するチームです。認知症の方（疑いのある方）やそのご家族を訪問し、相談に応じます。

病院受診やサービス利用、家族への支援などの初期支援を包括的・集中的に行います。

- ◆対象: 40歳以上で自宅での生活をしており、認知症の症状等でお困りの方
- ◆支援の流れ

支援チーム

① お住まいの地区の
おたっしゃ本舗
へご相談

必要に応じて

② **認知症初期集中
支援チーム**のサポート

- ・相談内容のききとり
- ・かかりつけ医との連携
- ・医療や介護サービスの検討、情報提供 など

③ **適切な
医療・介護サービス**
等へつなぐ



推進員

最初の相談
(情報提供)
をうける

(必要に応じて) 担当圏域の
対象者をチーム
につなげる

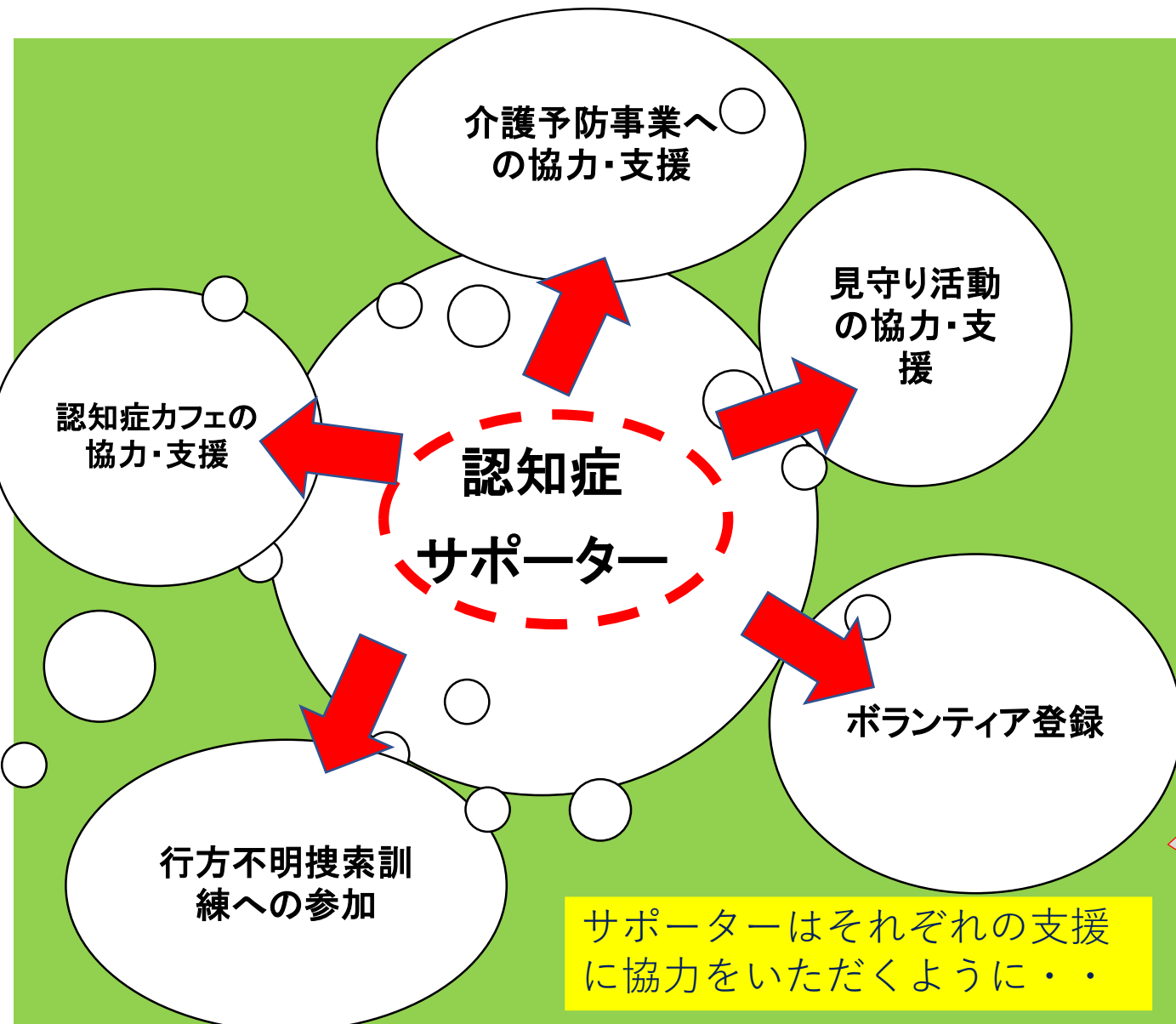
チームと情
報の共有を
図る

対象者の圏域の
適切なサービス
や機関の情報を
提供する

本人や家族とと
もに活動すること
で安心感につ
なげる

継続的に医
療・介護機関
との連携を図
る

認知症サポーター養成講座



小学校での認知症サポーター養成講座
認知症地域支援推進員が地域の垣根を越えて協力して開催しています。

企業、官公庁、学校、自治会、住民組織などいろいろな場面で講座を開催。サポーターのみなさんに地域づくりや地域での活動について考えてもらい、実践につなげてもらおうとしています。（生活支援コーディネーターとの兼務の強みを活かす）

認知症カフェ

佐賀市内の認知症カフェは10ヶ所（平成30年5月）

（佐賀市では認知症カフェを「認知症の人と家族、地域住民、専門職等の誰もが参加でき集う場所。認知症に対する悩みを持つ方が気軽に立ち寄り地域の人にも理解される場所」としています）

カフェ・オレンジ

運営：認知症の人と家族の会佐賀県支部

認知症の人本人や家族、認知症かなと心配している本人や家族、介護経験者、認知症サポーターなども参加。若年性認知症コーディネーターも参加。家族の会ならではの対応。



みずがえオレンジカフェ

運営：社会福祉法人

西九州大学の学生も企画運営に参加。介護相談に加え福祉全般の情報も提供。学生の就職相談にも・・・



佐賀市 認知症ケアパス

ケアパス作成までの主な流れ

- 平成28年4月～ 市担当課内で協議、検討、たたき台を作成
- 5月 認知症専門医に内容について相談
- 平成29年3月 「認知症施策に関する検討会」にてケアパスの内容について説明
- 4月 認知症地域支援推進員連絡会にてケアパスの説明と活用を依頼
- 7月 平成29年度認知症地域支援推進員研修（福岡市）
- 9月 認知症ケアパス勉強会開催
- 10月 連絡会にて案を提示・協議
- 11月 認知症の人と家族の会佐賀支部へ相談
- 12月～ 随時、修正を加え編集作業
- 平成30年2月 佐賀県認知症地域支援推進員フォローアップ研修
- 4月 佐賀市「認知症ケアパス」（平成30年度版）完成

佐賀市 認知症ケアパス

認知症の進行と主なサービスの例（アルツハイマー型認知症の場合）



※症状の現れ方には個人差があり、必ず下記の症状が現れるわけではありません。治療内容や周囲の方々の関わりによって、症状が緩和されたり進行が遅くなる場合もあります。

認知症の進行	元気高齢者	軽度認知症 (MCI)	認知症疑い	1人で生活ができる	誰かの見守りがあれば日常生活ができる	日常生活に手助けがあれば生活ができる	ほぼ全ての行為に介護が必要
本人の様子	自立	もの忘れなどの認知機能障害は多少あるが日常生活には支障をきたさない (認知症の診断基準は満たさない)	<ul style="list-style-type: none"> 同じことを何度も言う 昔のことは覚えているが、最近のことは覚えていない 料理の段取りがうまくできない 日づけや場所があいまいになってきた 薬や金銭の管理に困難が出始めている 	<ul style="list-style-type: none"> 季節にあわない服を着る 慣れた場所でも道に迷う 着替えやトイレなど身の回りのことが上手くできない 自分の名前が分からない 怒りっぽく興奮しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 表情が乏しくなる 家族の顔を忘れる 意思の疎通が難しくなる 食事が飲み込みにくくなる 尿意、便意が乏しくなる ほぼ寝たきり状態になる 		
家族の心構え等	<ul style="list-style-type: none"> 外出や人との交流の場をつくることを勧める 市の介護予防教室への参加を勧める 役割をもち、いきいきと生活できるようにする 適切な運動を勧め、バランスの良い食事を心がける 高血圧や糖尿病などの生活習慣病の予防をする 治療中の人は薬の飲み忘れに気をつける 普段の様子が変わると感じたら医師やおたっしゅ本舗に相談 	<ul style="list-style-type: none"> 介護保険サービスを検討 おたっしゅ本舗への相談 接し方の基本やコツを理解する (家族会への参加等) 	<ul style="list-style-type: none"> 介護サービス等を上手く活用できるよう担当ケアマネジャーと検討する 介護者自身の健康管理をする 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活でできないことが増えることを理解する 体調の急変や、床ずれ・肺炎等の合併症に注意する 今後に備えた相談をしておく 介護者自身の健康管理をする 			
主なサービスの例	医療 (5ページ)	認知症疾患医療センター					
		かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局					
		訪問看護					
	相談 (8ページ)	おたっしゅ本舗 (地域包括支援センター)・認知症地域支援推進員					
		ものわすれ相談室、認知症相談ダイヤル					
		居宅介護支援事業所 (ケアマネジャー)					
		認知症の人と家族の会、認知症カフェ、認知症初期集中支援チーム					
	介護予防 (9ページ)	老人クラブ・サークル活動 など					
		高齢者ふれあいサロン					
		市の福祉サービス・介護予防教室					
見守り (10ページ)	認知症サポーター、佐賀市おたっしゅ見守りネット						
	地域での見守りや助け合い (民生委員・警察)						
	安否確認事業 など						
生活支援 (10・11ページ)	シルバーパス券購入の助成・高齢者ノリのリバス など						
	軽度生活援助・生活支援サービス など						
介護保険サービス	訪問介護、通所サービス、ショートステイ など						
	訪問入浴介護						
制約するサービス	消費生活センター・あんしんサポート (日常生活自立支援事業)・成年後見制度・法律相談など						
住まい	見守り付き住宅 (ケアハウス)						
	サービス付き住宅 (サービス付き高齢者向け住宅・有料老人ホームなど)						
	介護を受けられる住宅 (グループホームなど)						

- ・ 正規版 (全16ページ)
- ・ 概要版 (全6ページ)

「当事者や家族、その身近な人が見てもわかる」視点で制作。

地域包括支援センターなど相談窓口でも活用できるように工夫。

民生委員など地域での訪問活動にも活用されている。

「地域資源」については地域により異なるので今後も随時更新が必要。

佐賀市大和町の見守り支援

佐賀市大和町見守り支援

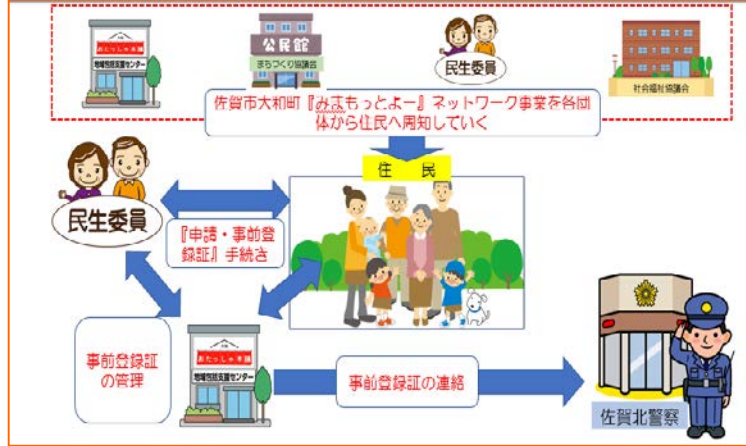
『みまもつとよー』ネットワーク

①行方不明早期発見・保護システムの構築 ②認知症カフェ開設（4校区公民館）

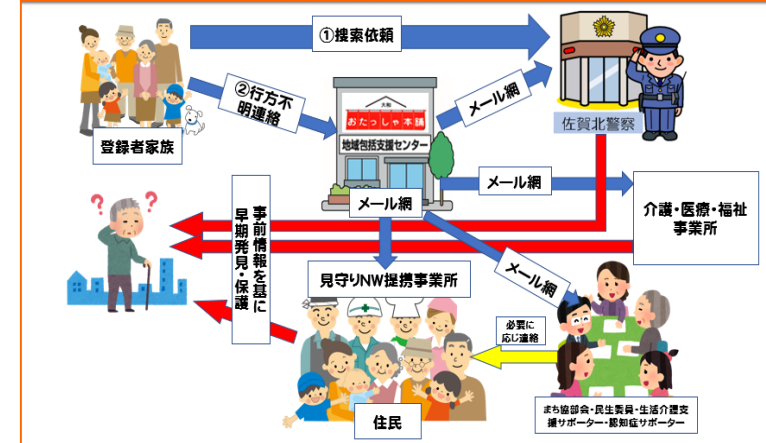
背景と目的及び概要

- 認知症の人の増加、及び認知症を起因とする行方不明者の増加は佐賀市大和町も例外ではなく、身近なこととして捉える。
- 警察庁まとめによる件数は4年連続1万件を超えている。警察に届けでない人の割合(家族や身近な人で探す)も多い。
- 行方不明発生から発見・保護までの時間(日数)が経過するほど生存率も低く、5日以上経過した場合の生存率は数パーセントである(桜美林大学研究、2016年)
- 行方不明の恐れがある認知症の人の事前把握や情報の整理等が現状では行われていない。
- 住民は認知症について、非常に高い関心を持っている。
- 佐賀市、地域包括支援センター、社会福祉協議会など自治体及び公的機関だけのシステムでは防ぐことは難しく、民生委員、自治会等住民組織や医療、介護等事業所との連携を基本としたシステムづくりが必要。

ネットワーク事業の周知と事前登録の流れ



行方不明発生時の流れ



- 「見守り支援」ネットワークを構築
- 住民主体の「生活支援」「介護予防支援」「見守り支援」を第2層協議体とともに推進
- 医療介護専門職、自治体(市、警察、消防)等も協力支援
- 地域ケア会議との連動

映画ケアニン上映会



推進員として連携支援していく際に大切にしていること

『地域アセスメント（課題分析）・課題の原因を調べる⇒原因に対して施す手立てを決める⇒実施する手立ての計画を作成する』の流れを、まずは自分自身で考えてみました。その上で、以下のこと大切にしています。

①どんなところにも積極的に出向き「推進員」を知ってもらう

- 民生委員会（校区会も）、自治会、班長会、まちづくりの会議、病院、医院、クリニック、薬局、介護事業所、商工会、商店、会社・・・ どれも以外とウェルカムでした。またいろいろと助けてもくださいます。
- 「法改正で・・・」「制度が・・・」「事業だから配置になった」「事業だからします」などの言葉は一切言っていません。地域の課題をみなさまの身近なこととして感じてもらうようにしています。

②新たな資源開発より今ある資源をリニューアル

- カフェ開設を検討するとき、新設よりも、すでに地域にある資源（住民主体の介護予防教室など）にカフェ的機能を付加するようにしています。住民が気軽に立ち寄れる、介護予防との組み合わせ、世話人さんの調整のしやすさ、自治会からの費用面支援などメリットも生まれています。
- 住民も専門職もネットワークも新たにつくろうとすると「またなにかやるの？」となるので、基本的に今ある組織を活用しています（住民さんは「協議会」疲れ）。

③他事業とともに

- 住民主体の介護予防・生活支援等の「生活支援体制整備事業」や「在宅医療・介護連携推進事業」、「地域ケア会議」等社会保障充実事業との連結を常に意識しています。そのために、それぞれの事業を推進される会議、研修、担当者との情報交換や共有は綿密にしています。

④仲間を増やす

- ちょっとしたことでも相談できる仲間を増やし、仕事量は増えても、ストレスは増やさないようにしています。

一年間の活動・課題・取り組みの方向性

【1年間の活動を通して】

- 生活支援コーディネーターとの兼務、加えて地域包括支援センターへの配置により、地域づくり（まちづくり）や地域ケア会議、総合相談窓口機関などの強みを活かした推進員活動が展開できている。＊「日常生活圏域」の地域の実情に応じた推進のための取り組み＊
- それゆえ、佐賀市の認知症施策といえは「コレ」といった目玉はまだ存在していないが、土着的に認知症施策をそれぞれの地域で拡大しつつある。
- 市担当者の「根気強い」認知症施策への取り組みが頼もしい。

【課題】

- 地域包括支援センターの配置、生活支援コーディネーターとの兼務で、業務が煩雑化しつつある。
- 佐賀市の認知症施策といえは「コレ」といった目玉がない。
- 推進員として、専門職や住民等に理解がまだまだ広まっていない。

【今後の方向性】

- 年度事業（活動）計画をもとにした活動を展開していく。
- 市内推進員同士の協力連携を継続。
- できれば、佐賀市の認知症施策といえは「コレ」を創出したい。

「佐賀県認知症介護指導者の活動と推進員との連携」

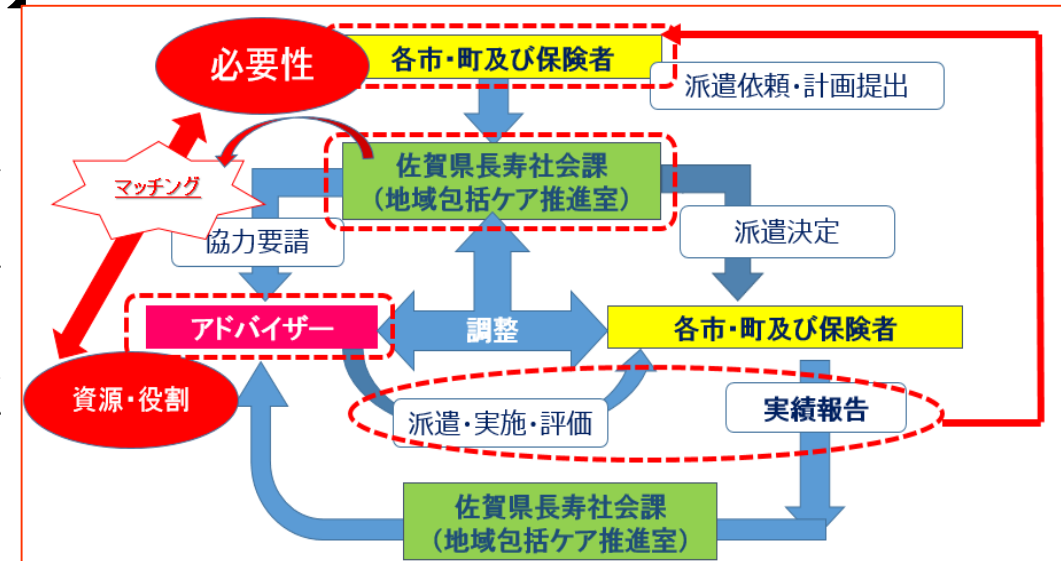
【認知症介護指導者とは】

認知症介護指導者養成研修を受講。主な役割として認知症介護実践研修等やその他研修・事業について、企画・立案に参画し、講義、演習、実習を担当。専門職に対する人材育成の関与に加え、認知症介護指導者自身が所属する事業所を中心とした地域の指導者としての役割も担っています。平成27年度末現在、全国で2,000名。佐賀県は25名。



【佐賀県地域包括ケア推進アドバイザー派遣事業】

県内の市・町、介護保険者が「**地域包括ケアシステムの構築**」に向けて取り組む、認知症施策や医療・介護連携、介護予防、生活支援サービス体制の整備等について、**専門職**を派遣し専門的な助言やサポートを行う。平成29年度より開始。派遣分野は、「認知症施策」「医療・介護連携」「介護予防」「生活支援サービス体制の整備」



「佐賀県認知症介護指導者の活動と推進員との連携」

佐賀市

【平成29年度】

- ・市担当者と随時協議
- ・新たに配置となった認知症地域支援推進員(15名)を集めた佐賀市認知症施策検討会にて施策の実施体制の検討
- ・新規配置推進員への後方支援を随時実施。
- ・都道府県市等の情報提供
- ・認知症サポーター活動の支援

【平成30年度】

- ・連絡会へ参加。活動計画中間評価等を検討。

佐賀中部広域連合

(介護保険者)

- ・保険者管内の認知症地域支援推進員(25名)を集めた研修会での講師やファシリテーター等
- ・認知症地域支援推進員研修(福岡会場, 7月)参加前に地域の実情等を確認し、研修効果を高める
- ・保険者担当者との随時協議
- ・都道府県市等の情報提供

有田町

- ・町内認知症地域支援推進員(5名)と町担当者を集めた会議にて地域課題の検討及び実施体制整備に関する検討
- ・ケアパス作成に関する協議
- ・町内専門職との認知症施策に関する研修、会議
- ・都道府県市等の情報提供

佐賀県認知症地域支援推進員フォローアップ研修

- ・推進員フォローアップ研修内容の検討
- ・認知症介護研究・研修東京センターとの調整
- ・地域毎のグループワークへの参加
- ・推進員、指導者相互の活動を知り情報の共有等連携

鳥栖地区広域市町村圏

組合(介護保険者)

- ・担当者と随時協議
- ・平成30年配置になった認知症地域支援推進員(8名)の連絡会に参加(予定)
- ・平成30年度認知症地域支援推進員研修(新任)後の活動についてワークショップ。(予定)
- ・認知症サポーター活動の支援(予定)

認知症介護指導者も地域の認知症施策について取り組んでいます。ぜひ、お近くの認知症介護指導者とも連携を図ってみてください！(都道府県・政令市単位で把握されています)

ご清聴ありがとうございました。



本日はありがとうございました
みなさま
ぜひ、佐賀へお越し下さい！